

背景

【これまでの取り組み】

- 本市の豊かな食や農への理解を深め、ふるさとへの誇りや愛着、生きる力を培うため、農業体験学習を市内の小中学校で実施（R7「農業は、新潟市の自慢になると思う」と回答した割合は97.5%）

【本市の課題】

- 東京圏への転出超過、特に20～24歳の転出超過が最も多い。（住民基本台帳人口移動報告）
- 農業者の高齢化・担い手不足が進み、76%が後継者を確保していない。（2020年農林業センサス）
- アグリパークのASP※利用率は小学校低学年以下が6割と高く、小学校中学年以上の利用率が低い。

※ASP：アグリ・スタディ・プログラム

事業のねらい

【農林水産部】

- 小学生から大学生まで各年代で切れ目なく、食や農について探究する機会を提供し支援することで、児童・生徒・学生の興味・関心を向上させ、将来、食や農の産業を支える人材の育成につなげる。
- スマート農業などの先端技術や6次産業化などビジネス感覚を養う学習により、農業のイメージが転換し、食や農の魅力を発信する人が増え、若者に選ばれる農業になる。

【教育委員会】

- 新潟市や自分の地域の食と農に関わる探究的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら、よりよく課題を解決する力を育成するとともに、持続可能な社会を実現するための自己の生き方を考えることができるようにする。

新潟市総合計画2023

【政策指標（基本計画）】

新潟市の農水産物などに対して誇りや愛着を持つ市民の割合

現状値 (令和4年度)	中間目標 (令和8年度)	最終目標 (令和12年度)
86.9%	90.0%	90.0%

【取組指標（前期実施計画）】

食と農のわくわくSDGs学習プログラム実施校数

目標 (令和6年度)	目標 (令和7年度)	目標 (令和8年度)
14校	21校	28校

事業概要

食と農のわくわくSDGs学習 [R4年度：モデル校情報収集、R5年度：モデル実施、R6年度～本格実施]

【食と農のわくわくSDGs学習推進事業とは】

- 主に小学校高学年から専門学校・大学までを対象とした食と農に関する探究的な学習を推進し、本市の豊かな食や農への理解を深め、地域への誇りや愛着、生きる力を培うとともに、本市の農業や食品産業を支える人材づくりにつなげる事業。

【学校への支援内容】

- 経費の支援（校外学習の交通費、アグリパーク宿泊費、講師謝礼）
- 専門家や校外学習先の紹介
- 実施計画、実施報告作成の支援（学校支援課と食と花の推進課による学校サポートチームが支援）

対象	小学校中・高学年～大学生
教科	総合的な学習（探究）の時間など
時間	最大70時間（学校の裁量による）
内容	食や農をテーマに課題を自ら設定し、解決に向けて取り組み、まとめ・表現する
目標	本市の食と農の教育環境を活用し、ふるさとへの誇りや愛着、生きる力を培う

